

2003年7月号
No.405

りゅうぎん調査 2003年7月号

Bank of the Ryukyus'
Okinawan Economic Review

No.405



琉球銀行

<http://www.ryugin.co.jp/>

県内の景気動向

概況（5月）

景気は、持ち直しの動き続く

観光関連では、入域観光客数が再び前年を上回る

建設関連では、公共工事請負額が引き続き前年を上回る

5月の県内景気をみると、消費関連では、新車販売は1年2カ月連続で前年を上回ったほかは、百貨店売上高およびスーパー売上高（既存店ベース）は引き続き前年を下回り、電気製品卸売も3カ月ぶりに前年を下回った。建設関連では、公共工事請負額が2カ月連続で前年を上回り、主要建設会社の受注額も再び前年を上回った。建設資材売上は鋼材が前年を上回ったほかは、セメント、生コン、建材はいずれも引き続き前年を下回った。観光関連では、入域観光客数が国内客の伸びにより再び前年を上回り、主要ホテルの稼働率は前年を上回ったものの売上高は前年を下回った。主要観光施設入場者数は新水族館の押し上げにより9カ月連続で前年を上回った。

総じてみると、消費関連には足踏み感がうかがえるものの、観光関連では国内客に好調さが戻り、建設関連に持ち直しの動きがみられることから、県内景気は、持ち直しの動きが続いている。

業界予想DI：鋼材・建材およびホテルが50超となる

03年6月～8月の業界予想DIは、50%超は前回調査時より2業種増えて3業種となり、50%ちょうどは1業種増えて1業種となり、50%割れは2業種減少して4業種となった。個人消費関連では、百貨店・スーパーは50%超幅を拡大し、新車販売、電気製品卸売はそれぞれ50%割れを続けた。建設関連では、セメント・生コンが50%割れから再び50%ちょうどへと改善し、鋼材・建材も50%ちょうどから50%超となった。建設受注は50%割れ幅を縮めた。観光関連では、ホテルはSARSによる影響が払拭されつつあること等から50%割れから50%超へと改善した。ゴルフ場は50%割れを続けた。

消費関連

百貨店売上高は、引き続き他業態との競合により8カ月連続で前年を下回った。スーパー売上高（既存店）は、衣料品等の不振が続き4カ月連続で前年を下回った。新車販売は、軽乗用車と小型乗用車が伸びたことにより1年2カ月連続して前年を上回った。電気製品卸売は、オーディオ、冷蔵庫等の減少により3カ月ぶりに前年を下回った。

建設関連

公共工事請負額は、「国」や「その他事務組合等」の発注工事が増加したことから2カ月連続で前年を上回った。県内主要建設会社の受注額は、民間工事の増加により再び前年を上回った。建設資材関連では、鋼材がホテルや公営団地建設等向け出荷増により引き続き前年を上回ったほかは、セメント、生コン、建材のいずれも引き続き前年を下回った。

観光関連

入域観光客数は、外国客がSARSの影響等により大幅に減少したものの国内客が好調に推移したことから再び前年を上回った。県内主要ホテルは、稼働率は前年を上回ったものの売上高はGWの不調により前年を下回った。主要観光施設入場者数は、新水族館の伸びにより9カ月連続で前年を上回った。ゴルフ場は、入場者数が7カ月ぶりに前年を上回り、売上高も前年並みとなった。

雇用関連

新規求人数（4月）は10カ月連続で前年を上回った。有効求人倍率（4月、季調値）は前月より悪化した。完全失業率（4月）は7.8%で前年同月より改善した。

その他

消費者物価（4月、総合）は前年同月と同水準となった。企業倒産では件数は前年を上回り、負債総額も前年を上回った。電力使用量（4月）は4カ月ぶりに前年を下回った。

りゅうぎん調査（2003年5月）

増減率 (%)

	前年同月比	前年同期比 (2003.3 - 2003.5)
1.消費関連		
(1)百貨店(金額)	4.2	9.5
(2)スーパー(既存店)(金額)	3.1	1.9
(3)新車販売(台数)	3.0	11.4
(4)電気製品卸売(金額)	1.9	2.7
(5)食品等卸売(金額)	P 1.9	P 4.4
2.建設関連		
(1)新設住宅着工戸数(戸)	(4月) 2.2	(2-4月) 30.3
(2)建築着工床面積(m ²)	(4月) 16.9	(2-4月) 6.3
(3)公共工事請負額(金額)	62.0	8.5
(4)建設受注額(金額)	41.7	17.0
(5)セメント(トン数)	10.0	10.0
(6)生コン(m ³)	14.6	13.5
(7)鋼材(金額)	10.4	6.9
(8)建材(金額)	2.4	5.4
3.観光関連		
(1)入域観光客数(人数)	1.7	0.8
(2)県内主要ホテル稼働率	(前年同月差) 1.5 (実数 67.1)	(前年同月差) 0.5 (実数 75.3)
(3) " 売上高(金額)	2.3	2.1
(4)観光施設入場者数(人数)	24.3	19.5
(5)ゴルフ場入場者数(人数)	1.0	2.6
(6) " 売上高(金額)	0.1	4.8
4.その他		
(1)県内新規求人数(人数)	(4月) 14.8	(2-4月) 23.7
(2)有効求人倍率(季調値)	(4月) (実数) 0.35	(2-4月) (実数) 0.37
(3)消費者物価指数(総合)	(4月) 0.0	(2-4月) 0.3
(4)企業倒産件数(件数)	(前年同月差) 5	(前年同期差) 2.0
(5)電力使用量(百万Kw)	(4月) 2.6	(2-4月) 0.4
(6)広告収入(県内マスコミ)(金額)	(4月) 0.6	(2-4月) 8.0

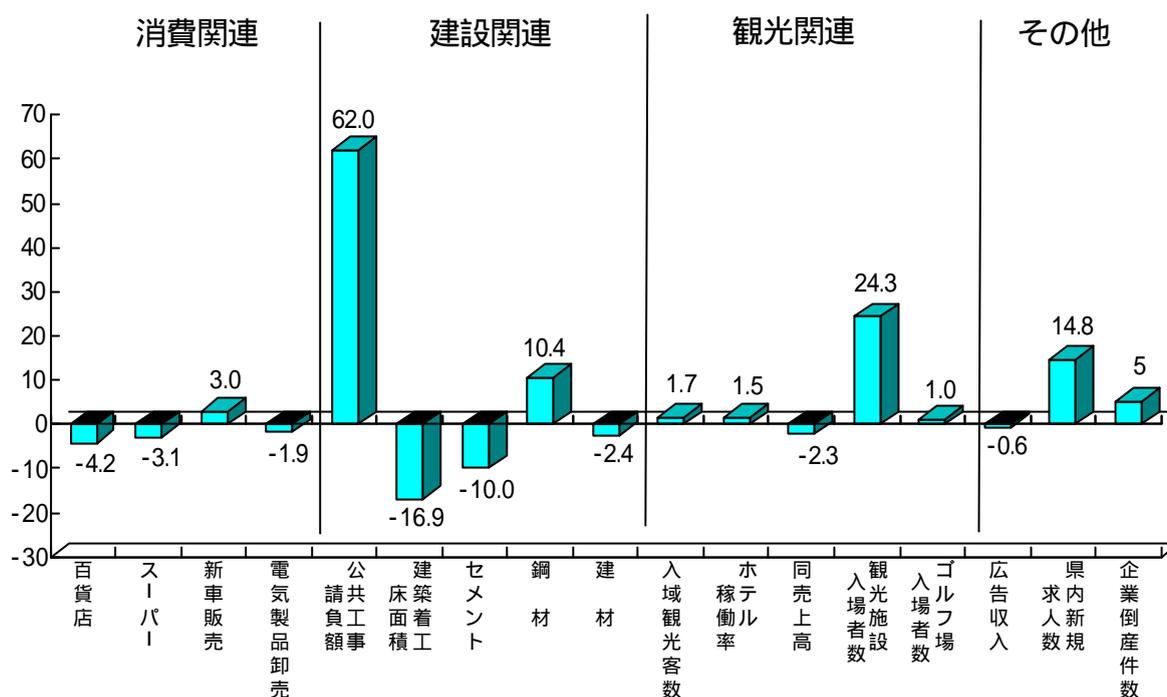
(注1) 新設住宅着工戸数、建築着工床面積は国土交通省調べ。公共工事請負額は西日本建設業保証株式会社沖縄支店調べ。入域観光客数、県内新規求人数、有効求人倍率、消費者物価指数は沖縄県調べ。企業倒産件数は東京商工リサーチ沖縄支店調べ。Pは速報値。

(注2) 企業倒産件数の前年同期差は、月平均件数の前年同期差。

(注3) ホテルは、2002年9月より調査先を19ホテルから18ホテルとした。

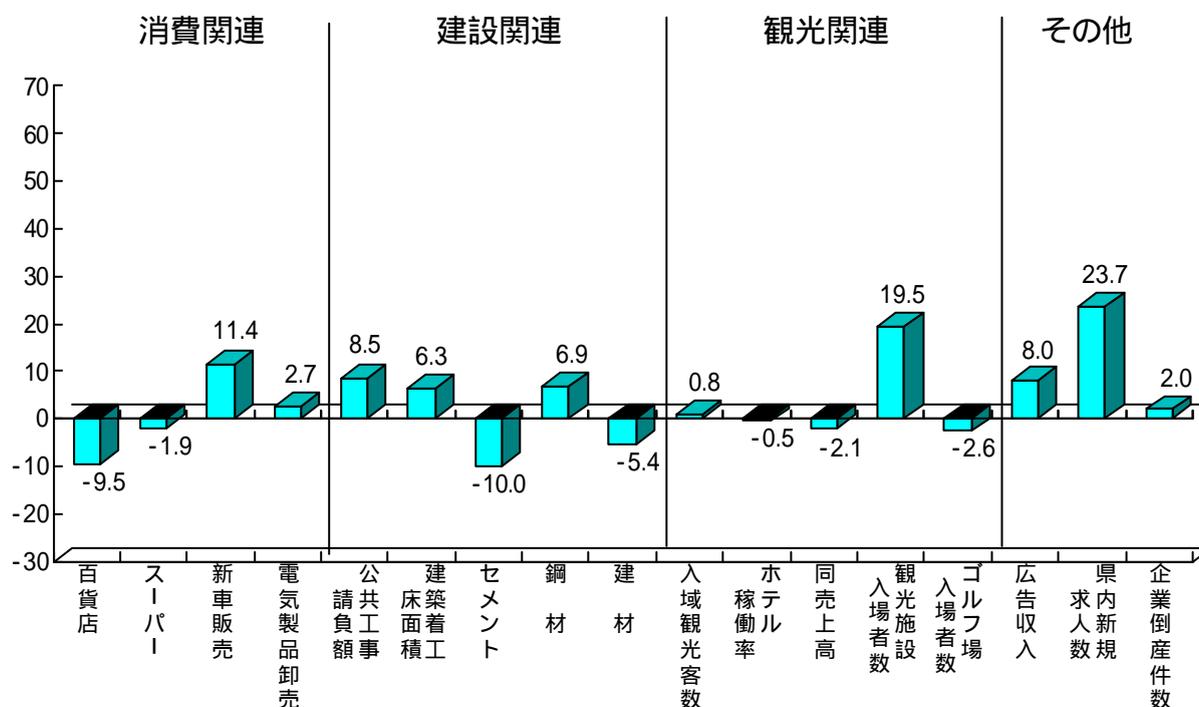
(注4) 鋼材、建材は2003年4月より一部データの見直しを行った。

りゅうぎん調査（2003年05月）



(注) 建築着工床面積、広告収入、県内新規求人数は4月分。数値は前年比(%)。
ただし、ホテル稼働率(%ポイント)、企業倒産件数(件)は前年差。

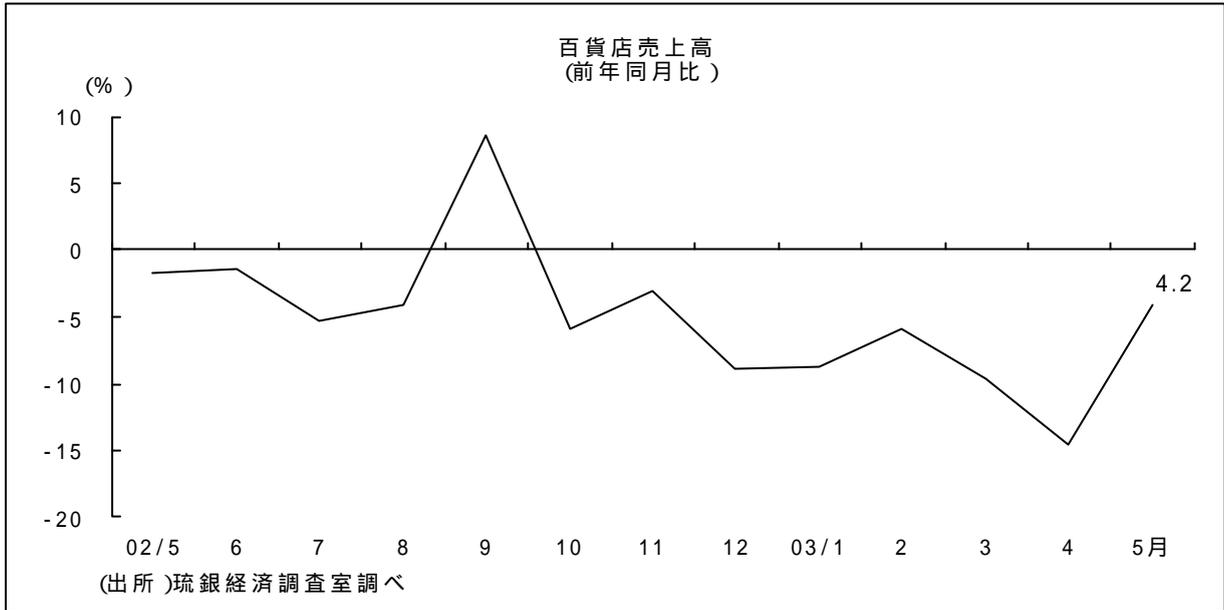
りゅうぎん調査（2003年03月～2003年05月）



(注) 建築着工床面積、広告収入、県内新規求人数は2～4月分。数値は前年比(%)。
ただし、ホテル稼働率(%ポイント)は前年差。企業倒産件数(件)は月平均の前年差。

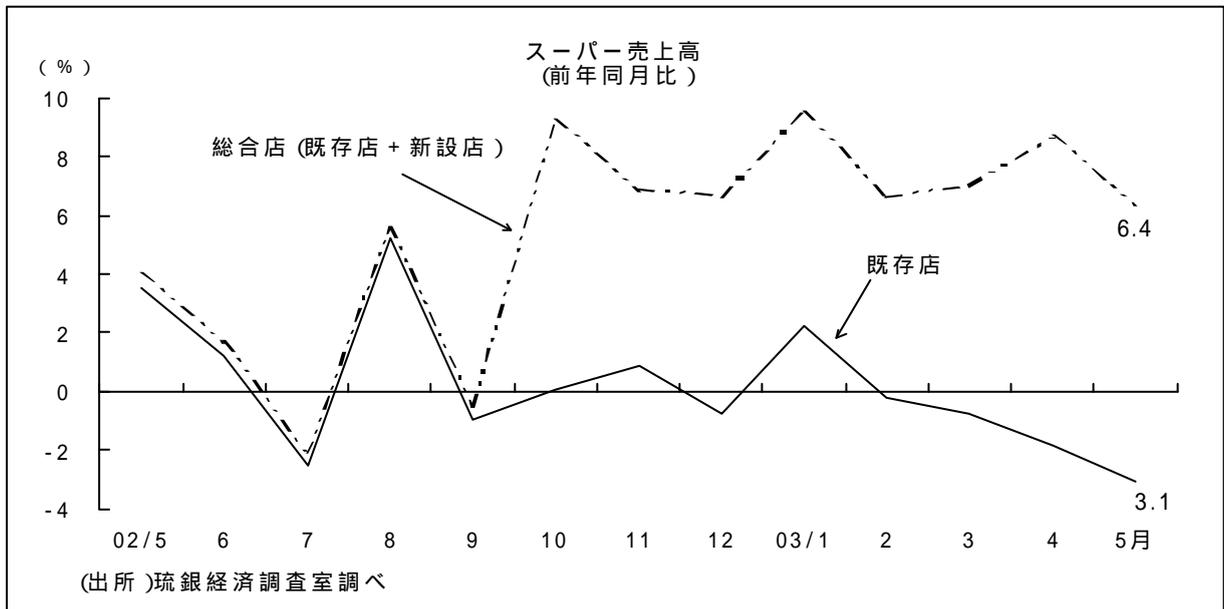
1. 消費関連

(1) 百貨店、スーパー：百貨店売上高は8カ月連続で前年を下回った
 スーパー売上高(既存店)は4カ月連続で前年を下回った



百貨店売上高は、前年同月比 4.2%の減少となり、8カ月連続で前年を下回った。品目別にみると、衣料品(同 4.4%減)、食料品(同 6.6%

減)、家庭用品(同 10.4%減)、サービス等その他(同 1.5%減)、身の回り品(同 0.2%減)とともに前年を下回った。



スーパー売上高

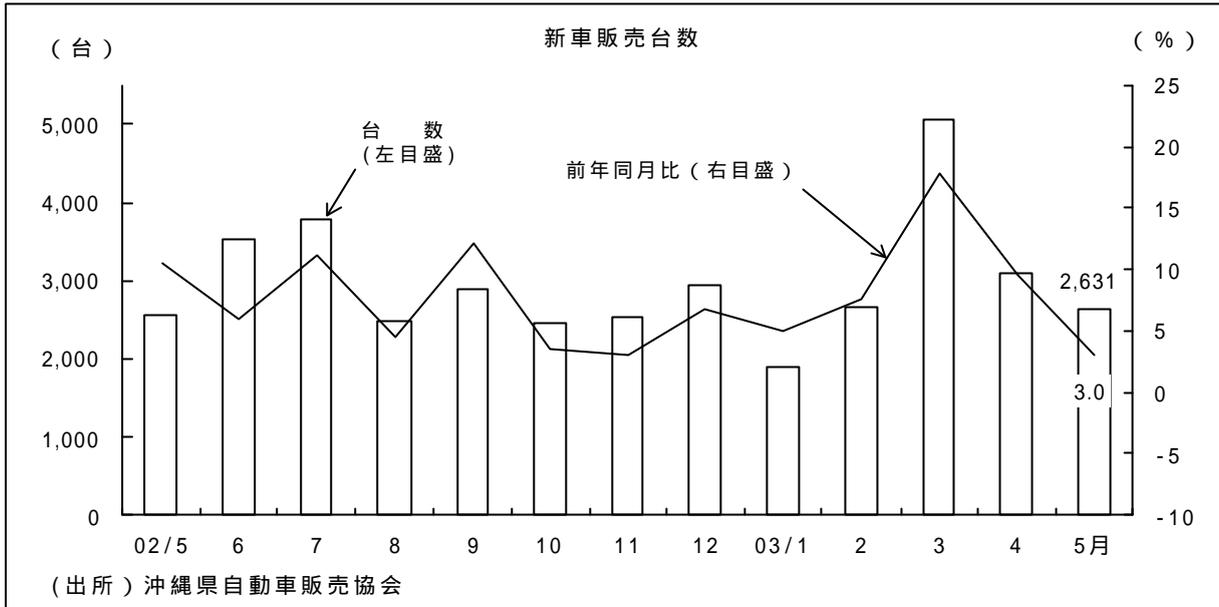
既存店ベースは、前年同月比 3.1%の減少となり、4カ月連続で前年を下回った。

新設店を含む売上高(総合店ベース)は、同 6.4%の増加となり、8カ月連続で前年を上回

った。

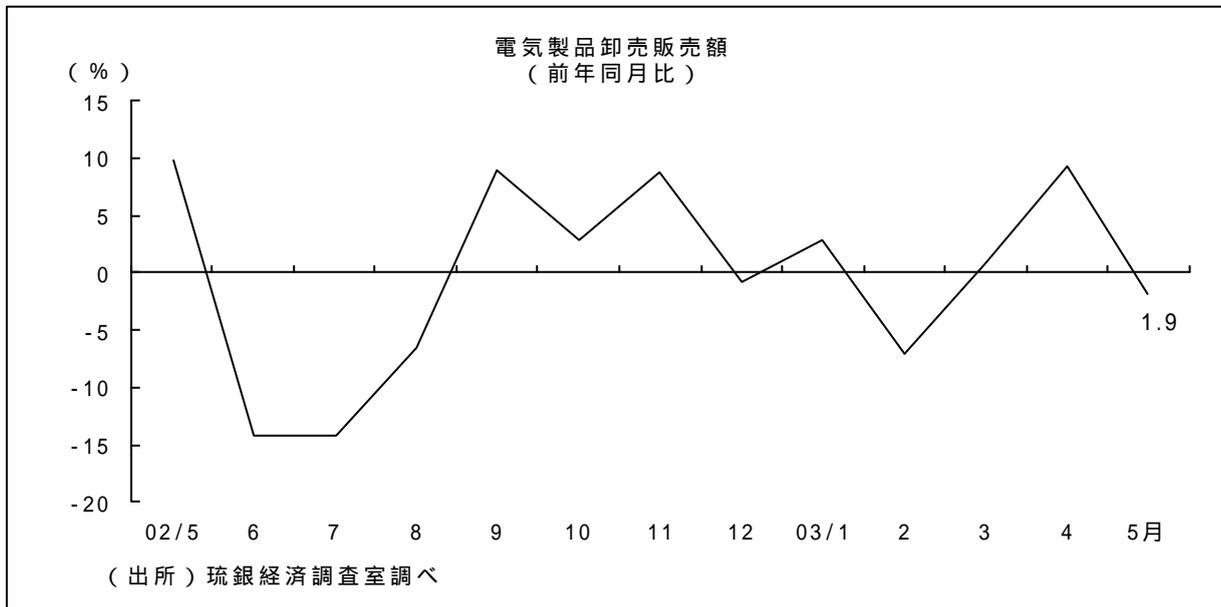
百貨店とスーパーの売上高合計(既存店ベース)は、同 3.2%の減少となり、4カ月連続で前年を下回った。

(2) 新車販売：1年2カ月連続で前年を上回る



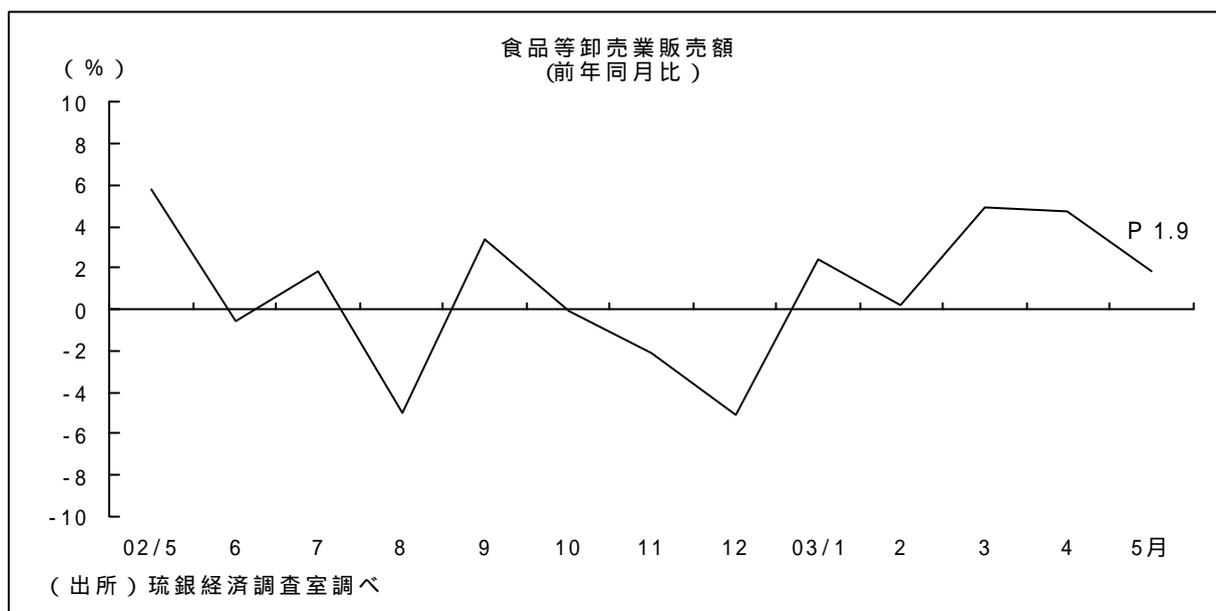
新車販売台数は2,631台となり、前年同月比3.0%増と1年2カ月連続で前年を上回った。普通自動車(登録車)は、1,035台(前年同月比2.9%減)で、うち普通乗用車は、172台(同18.1%減)、小型乗用車は、726台(同5.7%増)となった。軽自動車(届出車)は、1,596台(同7.3%増)で、うち軽乗用車は、1,327台(同12.3%増)となった。

(3) 電気製品卸売：3カ月ぶりに前年を下回る



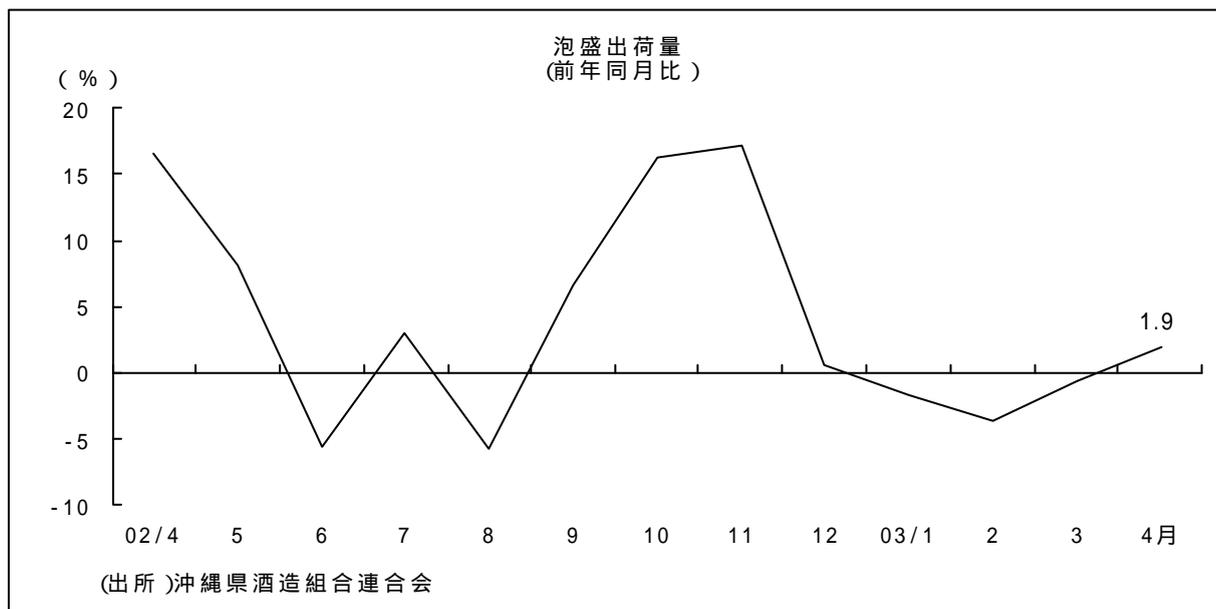
電気製品卸売販売額は、前年同月比1.9%減となり3カ月ぶりに前年を下回った。主要家電は前年を上回ったものの(前年同月比3.5%増)、その他電気製品は前年を下回った(同6.8%減)。主要家電の内訳をみると、オーディオ(同19.4%減)、冷蔵庫(同2.2%減)、VTR(同6.7%減)は前年を下回ったものの、エアコン(同9.5%増)、テレビ(同12.6%増)、洗濯機(同5.5%増)、レンジ(同1.2%増)は前年を上回った。

(4) 食品等卸売業販売額：5カ月連続で前年を上回る



食品等卸売業の販売額(5月速報値)は、前年同月比 1.9%増と5カ月連続で前年を上回った。

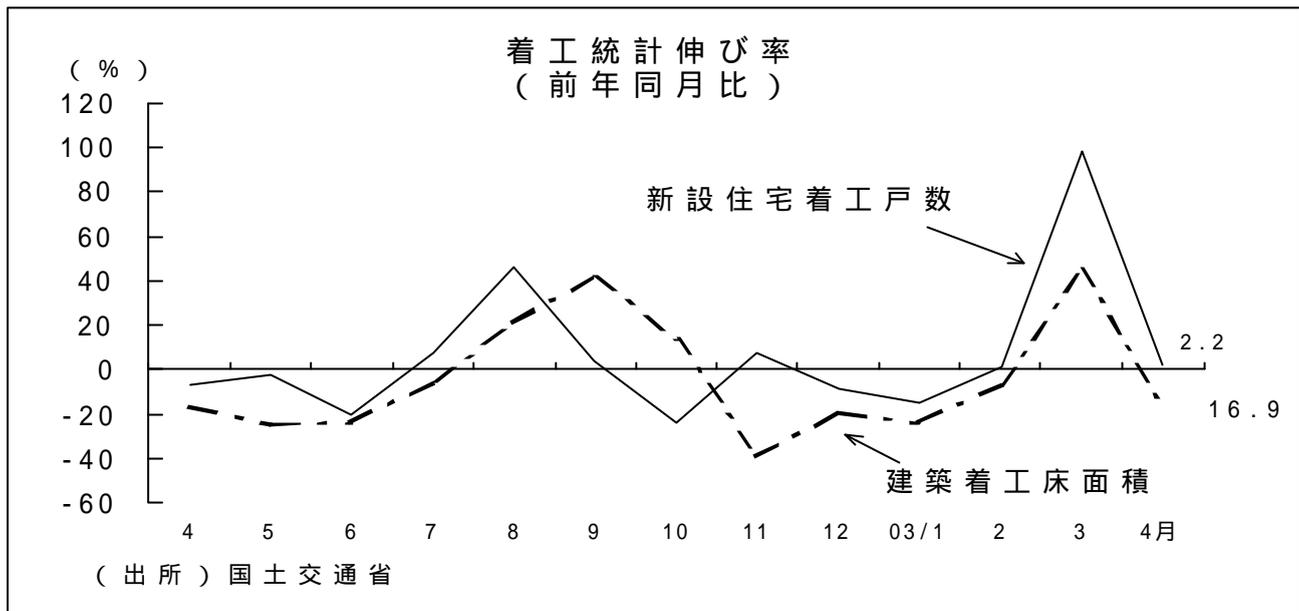
(5) 泡盛出荷量：泡盛出荷量は4カ月ぶりに前年を上回った



泡盛出荷量(4月)は前年同月比で 1.9%増 外出荷量は同 79.5%増加した。
加した。県内出荷量は同 7.9%減少したが、県

2. 建設関連

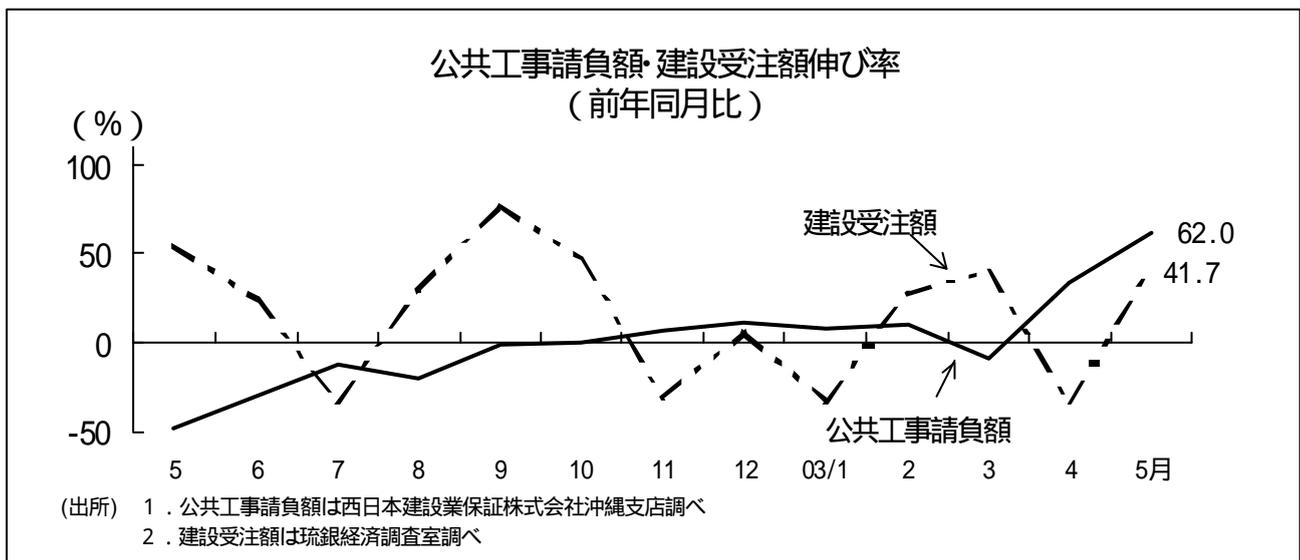
(1) 着工統計：新設住宅着工戸数が2カ月連続の増加



新設住宅着工戸数 (4月) は1,063戸で、前年同月比 2.2%増と2カ月連続の増加となった。利用関係別では、持家 (同25.7%減)、分譲 (同100.0%減) が減少したものの、貸家 (同18.1%増) が増加した。

建築着工床面積 (4月) は12万1,034㎡で、前年同月比 16.9%減少した。用途別では、居住用 (同9.7%減)、非居住用 (同30.7%減) とともに減少した。

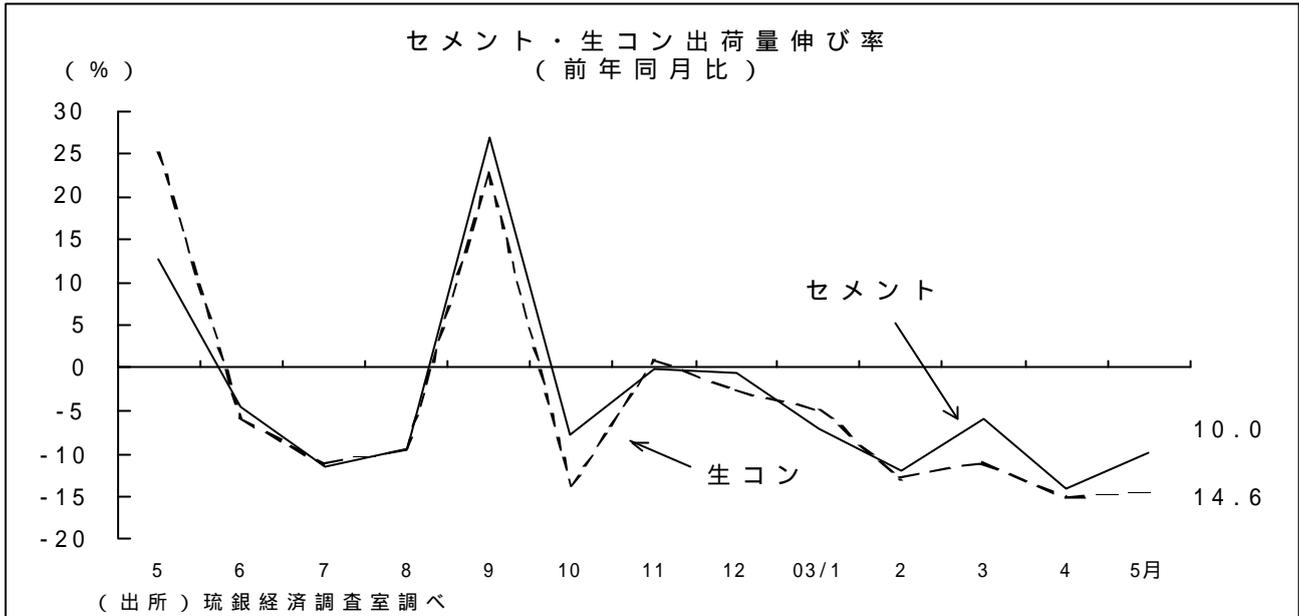
(2) 公共工事請負額・建設受注額：公共工事請負額が2カ月連続の増加



公共工事請負額 は165億83百万円で前年同月比 62.0%増と、2カ月連続の増加となった。発注者別では、「県」 (同7.8%減)、「市町村」 (同7.3%減) が減少したものの「国」 (同31.6%増)、「その他」 (同1,457.9%増) 等が増加した。

建設受注額 (県内建設会社：20社) は、前年同月比 41.7%増となった。発注者別では、公共工事 (同53.9%減) が減少し、民間工事 (同85.5%増) が増加した。

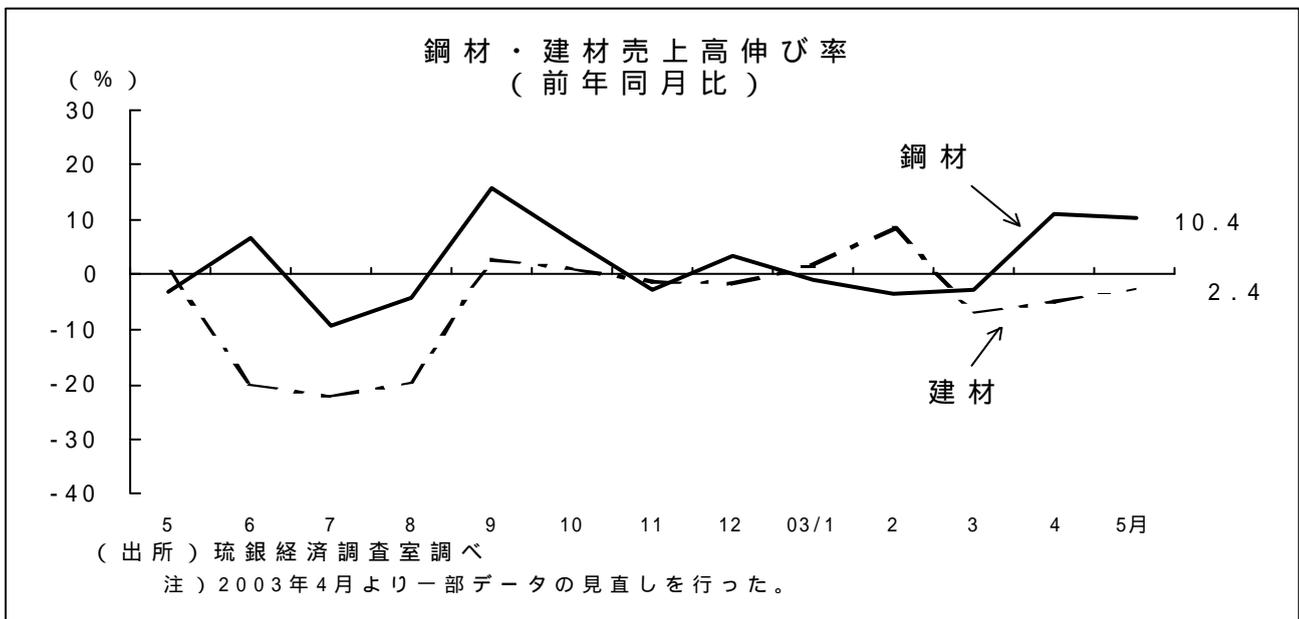
(3) セメント・生コン：セメント・生コンともに減少



セメント出荷量は7万3,279トンで前年同月比10.0%減となり、8カ月連続で前年を下回った。

生コン出荷量は15万8,765立方メートルで前年同月比14.6%減と6カ月連続で減少した。公共工事では海事工事向け出荷が減少し、民間工事では貸家建設向け出荷が増加したものの、持家建設や店舗建設向け出荷が減少した。

(4) 鋼材・建材：鋼材が増加したものの、建材は減少

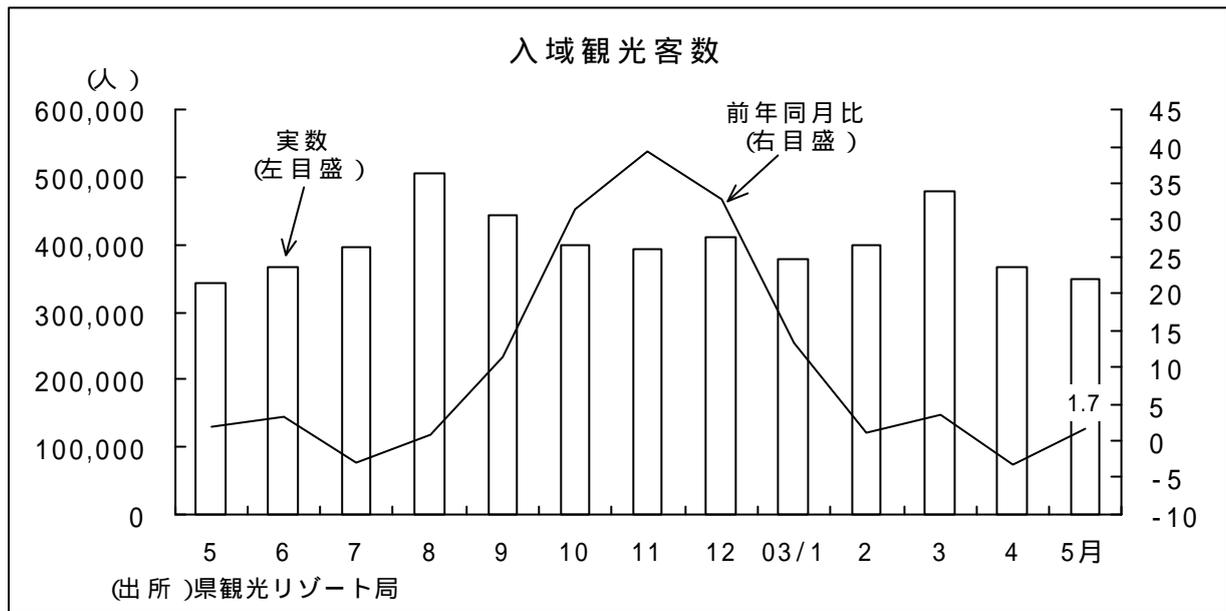


鋼材売上高は、前年同月比10.4%の増加となった。ホテル建設や公営団地建設向け等に出荷がみられた。

建材売上高は、前年同月比2.4%の減少となった。住宅を中心に建築着工床面積の減少が続いたことから、建材出荷も鈍い動きとなっているが、減少幅は縮小しつつある。

3. 観光関連

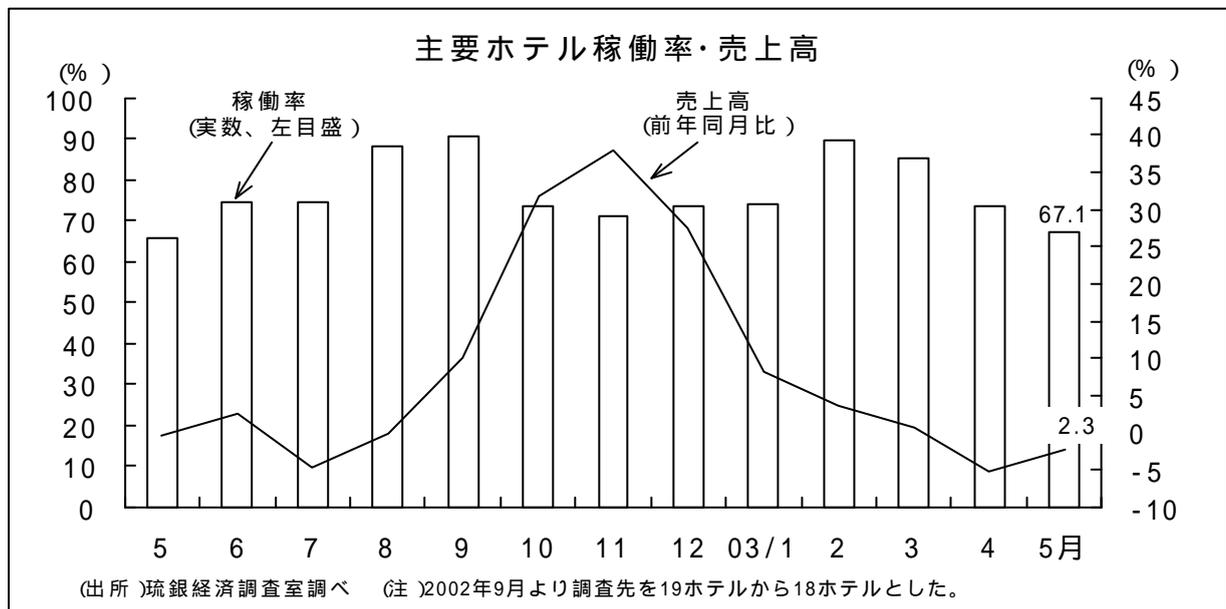
(1) 入域観光客数：再び増加



入域観光客数は、348,700人でSARSの影響等で外国客は大幅に減少したものの国内客の増加により前年同月比1.7%増と再び増加した。国内

客は同6.3%増、外国客は同69.5%減となった。6月20日までの国内航空入域客数をみると、前年同期比0.7%の増加となっている。

(2) 主要ホテル：売上高が前年を下回る

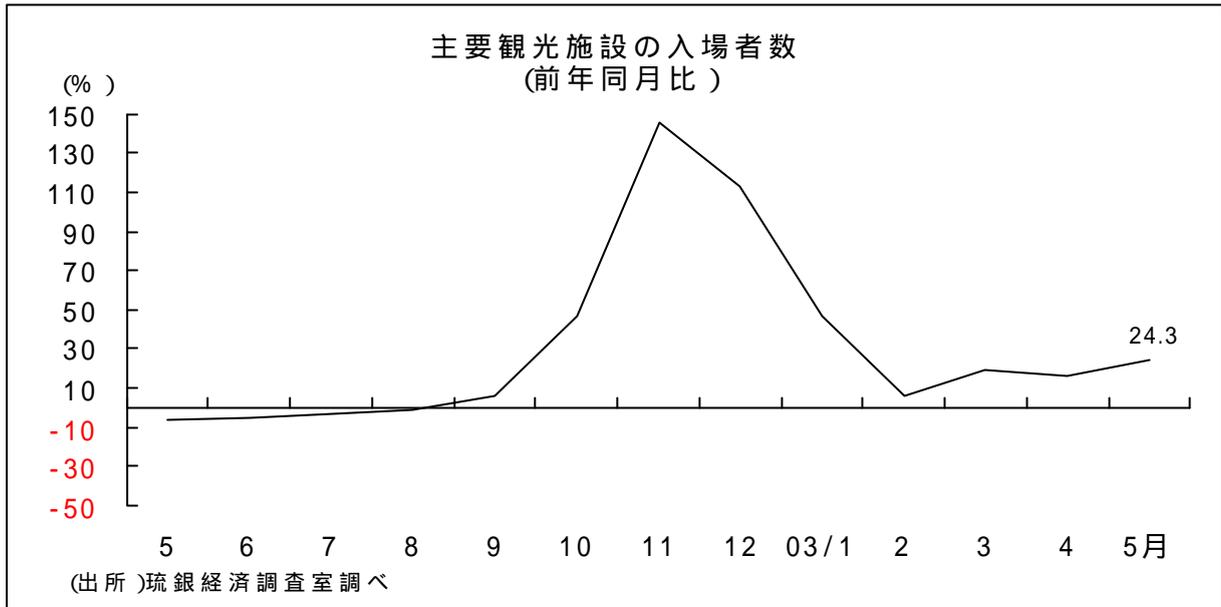


主要ホテルの客室稼働率は、67.1%と前年同月比1.5ポイント上昇した。売上高は宿泊単価の減少により2.3%減となった。ゴールデンウィークは日並びの悪さ等から全般に冴えず、宿泊単価を押し下げる要因となった。

那覇市内大手ホテル
稼働率は67.7%で同0.9ポイント低下した。売上高は同3.0%の減少となった。

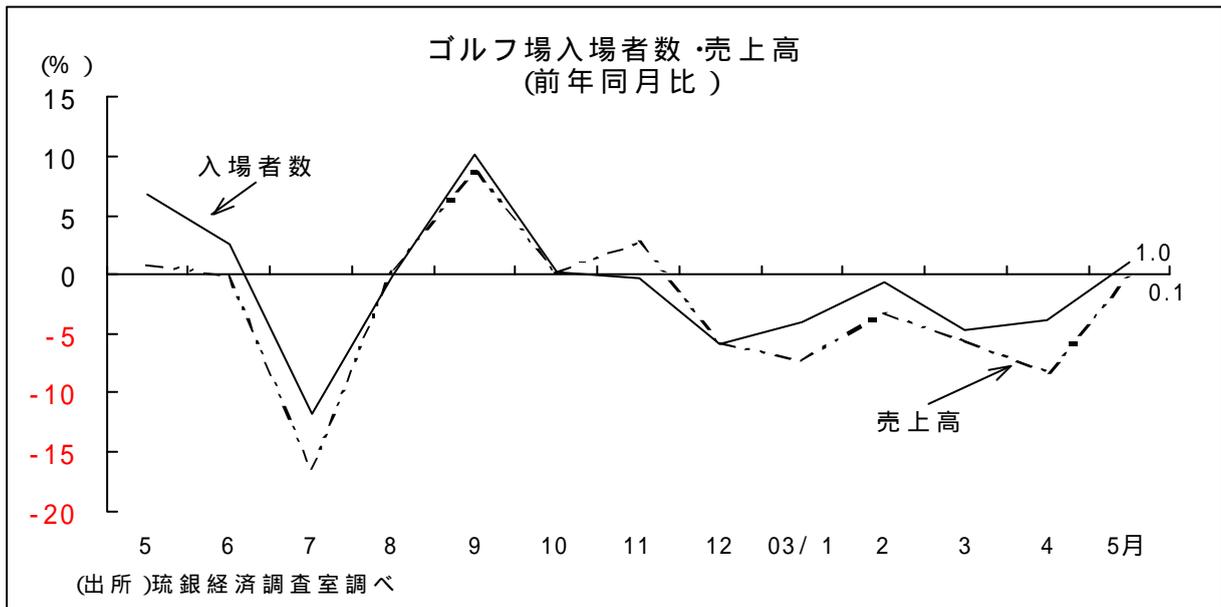
リゾート型ホテル
稼働率は66.7%で同3.1ポイント上昇した。売上高は同2.0%の減少となった。

(3) 主要観光施設入場者数：引き続き増加



主要観光施設の延べ入場者数は、前年同月比 連続の増加となった。全般には台湾客の減少の
24.3%増と新水族館の伸びに支えられ9カ月 影響等から総じて低調な動きが続いている。

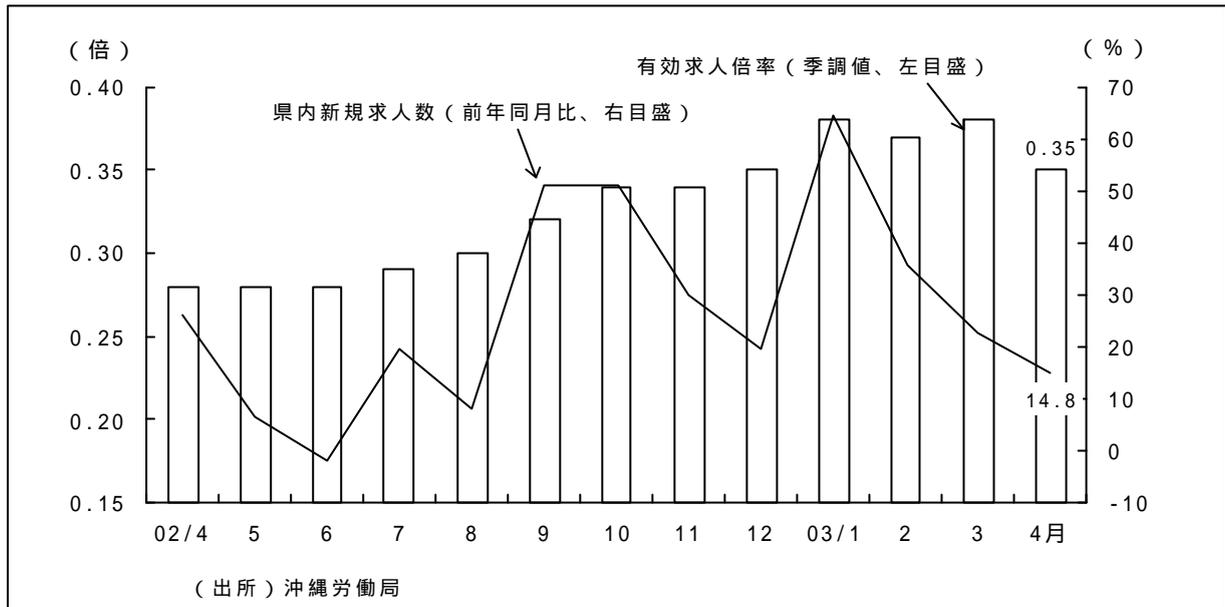
(4) 主要ゴルフ場稼働状況：入場者が7カ月ぶりに増加



主要ゴルフ場の入場者数は、前年同月比 訳では、県外客が増加し、減少を続けていた県
1.0%増と7カ月ぶりに増加し、売上高は同 内客もほぼ前年並みとなった。
0.1%減とほぼ前年並みとなった。入場者の内

4. その他

(1) 雇用関連：新規求人数は10カ月連続で前年を上回る



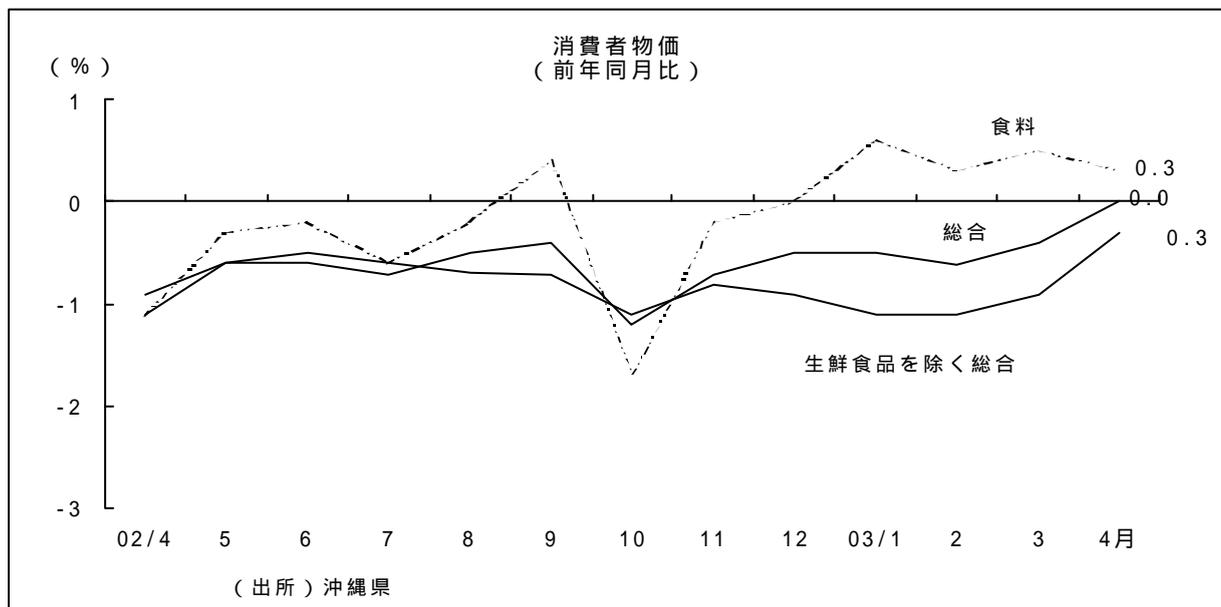
有効求人倍率(4月)は0.35倍となり、前月から0.03ポイント悪化した。

新規求人数(4月)は前年同月比14.8%増となり10カ月連続で前年を上回った。製造業、運輸・通信業、金融保険業、サービス業などで増加した。

労働力人口(4月)は629千人で、前年同月比1.8%増加した。就業者数は580千人で、前年同月比2.1%の増加となった。

完全失業者(4月)は49千人で、前年同月比2.0%減となった。完全失業率は7.8%で、前年同月より0.3ポイント改善した。

(2) 消費者物価：総合は前年と同水準となった

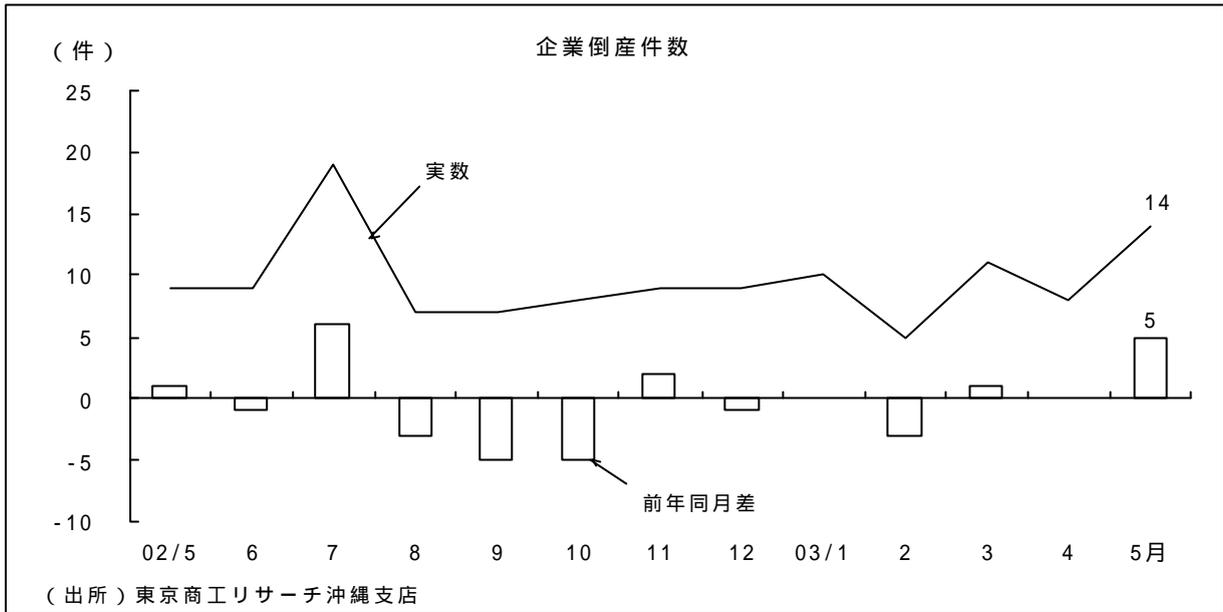


消費者物価指数総合(4月)は4年連続で前年を下回ったのち、前年同月と同水準となった。

品目別に前年同月の動きをみると、被服及び履物は4.3%、光熱・水道は1.1%、教養娯楽は0.4%、家具・家事用品は0.9%、住居は0.1%、

諸雑費は0.3%下落した。一方、保健医療は4.0%、食料は0.3%、教育は1.9%、交通通信は0.5%上昇した。

(3) 企業倒産：件数、負債総額ともに前年を上回る

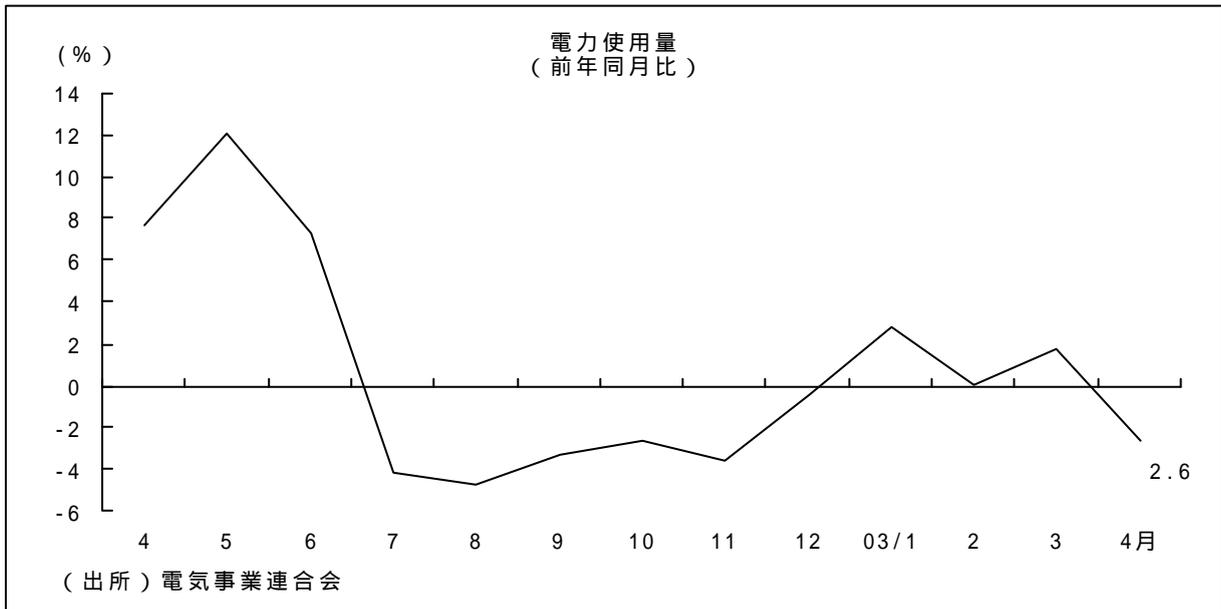


倒産件数は14件となり、前年同月を5件上回った。業種別にみると、建設業が6件、サービス業が4件、小売業が2件、卸売業が1件、製造業が1件となった。特別保証で借入をした

後に倒産した企業数は8件で、98年10月の実施以降の累計件数は292件となった。

負債総額は39億6,000万円となり、前年同月比40.3%増加した。

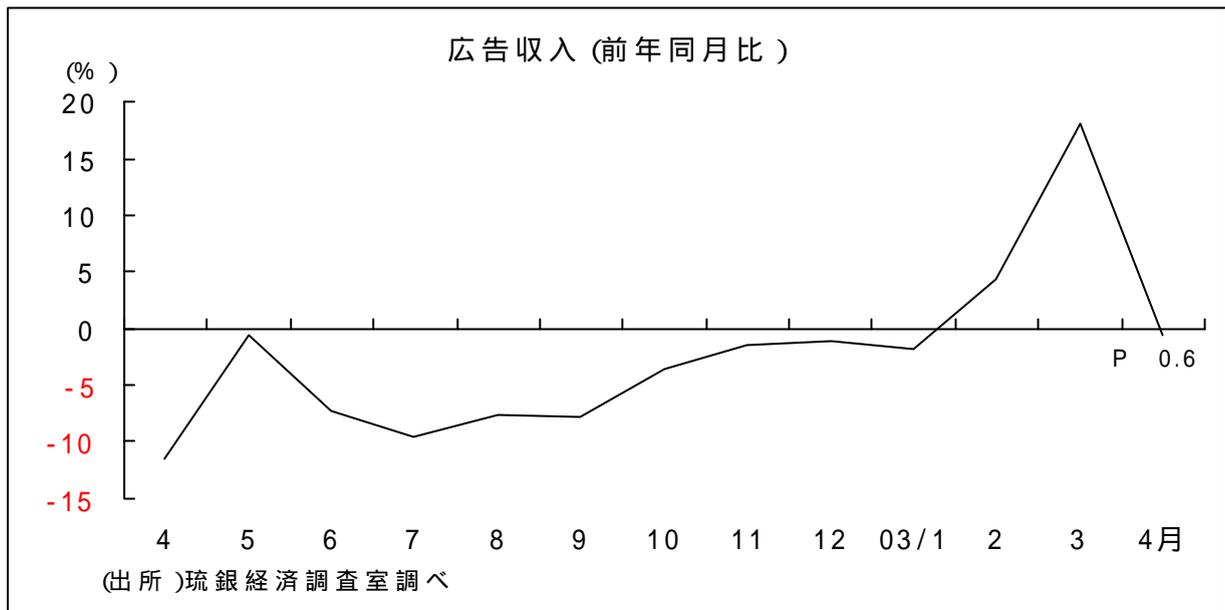
(4) 電力使用量：4カ月ぶりに前年を下回る



電力使用量(4月)は、前年同月比2.6%の減少となり、4カ月ぶりに前年を下回った。大口は6カ月ぶりに前年を下回り(同7.0%減)

小口は5カ月ぶりに前年を下回った(同7.6%減)。一方、業務用は再び前年を下回った(同0.2%減)

(5) 広告収入(県内マスコミ): 3カ月ぶりに減少



4月の広告収入(県内マスコミ)は、テレビが引き続き増加したものの新聞、ラジオが減少に転じたことから、全体では0.6%減(速報値)と3カ月ぶりに減少に転じた。

5. 業界予想DI: 鋼材・建材およびホテルが50超となる

業種	予想項目	03/4~6月	5~7月	6~8月
百貨店・スーパー	売上高	58.3	58.3	75.0
新車販売	台数	50.0	45.0	40.0
電気製品卸売	売上高	41.7	41.7	41.7
セメント・生コン	出荷量	50.0	35.7	50.0
鋼材・建材	売上高	50.0	50.0	56.3
建設受注	受注額	30.0	37.5	45.0
ホテル	宿泊客数	22.2	38.9	52.8
ゴルフ場	売上高	31.3	37.5	37.5

03年6月~8月の業界予想DIは、50%超は前回調査時より2業種増えて3業種となり、50%ちょうどは1業種増えて1業種となり、50%割れは2業種減少して4業種となった。

個人消費関連では、百貨店・スーパーは50%超幅を拡大し、新車販売、電気製品卸売はそれぞれ50%割れを続けた。

建設関連では、セメント・生コンが50%割れから再び50%ちょうどへと改善し、鋼材・建材も50%ちょうどから50%超となった。建設受注は50%割れ幅を縮めた。

観光関連では、ホテルはSARSによる影響が払拭されつつあることから50%割れから50%超へと改善した。ゴルフ場は50%割れを続けた。

(注) 業界予想DIは、業種ごとに、調査月を含む将来3カ月の前年同期比業況見通し(上昇、もち合い、下降)をヒアリングし指数化したもので、50%を基準として数値がそれより大きければ業況の改善、小さければ悪化の見通しが多いことを意味する。